

おぶち

しち

小淵 志ち

弘化4年（1847）～昭和4年（1929）

群馬県勢多郡富士見村（現 群馬県前橋市）出身



小淵志ちは、貧しい家に生まれたため無学であったが、幼い時から母の繰糸を見て技術を習得した。32歳の時に中島徳次郎と故郷を出て伊勢参りの途中、二川に留まることになった。

二川で女工に繰糸の技術を教授しながら製糸業を開始。その後、繭不足や女工の引き抜き、さらには徳次郎の獄死といった様々な困難があったが、利用価値が少ない玉繭（二匹の蚕が作った繭）から糸を紡ぐ玉糸製糸の開発に成功。豊橋の製糸業の発展につながった。岩屋緑地（大岩町）に「小淵志ち銅像」がある。

玉糸製糸業の創始者